



赤谷プロジェクトでは、「クマタカを指標とした森林管理に関する提言」をまとめました。
クマタカと森林にはいったいどんな関係があるのでしょうか？

クマタカは、森林生態系の食物連鎖の上位に位置し、森林に生息する様々な中小動物を獲物としている大型の猛禽類です。



空を舞う若鳥

クマタカの生息環境を保全することは、その地域に生息・生育する野生動物の多様性と豊かさを保全することに繋がります。さらに、クマタカは北海道から九州まで様々な植生の森林地帯に連続して広く分布しているため、クマタカが安定して生息している環境が存在していることは、森林を構成する植生の種類にかかわらず、中小動物が豊富に生息し、かつ、クマタカが狩りをするところができる林内空間を有する森林環境が保全されていることの指標になると考えられます。

赤谷の森には、現在4つがいのクマタカの営巣が確認されています。赤谷プロジェクトでは、生物多様性



育雛（いくすう）の様子



茂倉ペアの営巣する茂倉沢

の豊かさを指標する野生動物であるクマタカの繁殖状況や狩りをする場所などについて継続的に調査を行ってきました。

これらの調査結果に基づき、今回、赤谷プロジェクト・猛禽類ワーキンググループは、「クマタカを指標とした生物多様性の保全に資する森林管理―赤谷プロジェクトからの提言―」を取りまとめ、赤谷森林ふれあい推進センターのホームページに掲載しました。

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/akaya_fc/kumatakashinrinkanri.html

クマタカを指標とした森林管理の基本的な考え方としては、営巣環境

としての機能の維持・向上を重視した森林管理とともに、狩り場として利用できるよう、クマタカの獲物となる中小動物の多様性を向上させつつ、また森林資源の持続的利用も行うよう、人工林の管理、自然林の維持・向上、人工林から自然林への転換をそれぞれ図っていくこととしています。

このため、森林施業の実施にあたっては、

- (1) 高齢の自然林の保護・保全
- (2) 沢筋の人工林の針広混交林又は自然林への誘導
- (3) 人工林資源の循環利用の推進
- (4) 既設の路網の適切な維持管理

を基本方針としています。詳細についてはぜひ提言本体をお読みいただきたいと思えます。

この提言書は、クマタカが安定的に生息して繁殖を継続することができ生物多様性に富む豊かな森林環境を維持・向上させること、かつ、森林資源の持続的な利用を実現することに役立つ、具体的な森林管理の考え方と方法を提案しています。

この提言書で示している森林管理の具体例は、他の地域の森林にも応用できるものと考えられますので、今回の提案を参考として全国各地でクマタカを指標とした森林管理が実践されていくことを期待しています。